

2023年度 総括案

代表 沼田 栗実

2023年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）感染症が5類相当になり、コロナ以前の状況に少しずつ戻りながら、活動してきました。コロナ禍で休止していたイベントの復活に伴う活動再開や新しい取り組みもしながら、出来ることを考え、実行してきたと思います。事業ごとに振り返り、総括していきたいと思います。

2023年度は、以下の4つの短期目標を掲げ事業を行ってきました。

- 1 HIV/エイズを取り巻くさまざまな背景を鑑み、他団体とつながりを強化する。
- 2 新しい予防方法の普及につなげるため、コンビネーション予防について伝えていく。
- 3 スタッフが参加しやすい勉強会を実施し「HIV/エイズに関する知識」だけでなく、「感じる力」「考える力」「伝える力」などのスキルアップを図る。
- 4 活動の輪を広げるための会員数の拡大に向けて、アクセスしやすい環境を整備する。

電話相談事業は、毎週火曜日の19時～22時までに行っている当会でも長い歴史のある事業です。2023年度は相談員1名が転勤のため活動を離れたため、相談員が2名になりました。相談員が仕事により、シフトに入れなかった場合もありましたが、以前相談員をしていたスタッフの協力も得ながら、2人体制を維持しながら運営することができました。

COVID-19感染症の影響もまだまだ感じており、電話相談の件数は以前ほど多くはない状況が続いています。また、何度も何度も電話相談を利用している相談者への対応は、モチベーションの維持が難しくなる時がある中で、様々なアプローチを試しながら常に「どうしたら安心できるのか?」「どのように伝えたら心配が軽減できるか?」と考えながら、諦めることなく対応してくれている相談員に感謝しています。

相談員の減員もあり、前年度のように電話相談員間で勉強会を実施することはできませんでしたが、最新情報や性感染症の情報を含め、各々が必要な外部研修に積極的に参加し、相談員それぞれが研鑽を積むことができました。研修で得た情報を生かしながら、これからも言葉選びを慎重に、相談者に寄り添えるようにしていきましょう。

また、当会の事業ではありませんが、札幌市主催の「LGBTのためのエイズ検査会」での当日の相談員派遣を引き続き行っているほか、札幌市の「LGBTに関する電話相談」の相談員として関わっているスタッフがいます。各相談それぞれの難しさがありますが、変わらず信頼される対応をしてくれている相談員に感謝いたします。これらの相談も、言葉選びを慎重に、相談者に寄り添えるようにしていきましょう。

講演事業は、COVID-19感染症が5類になりましたが、講演依頼はなく充電期間な一年となりました。平日に動ける講演スタッフの確保が継続的な課題ではありますが、講演依頼が来たら対応できるよう引き続き準備していきましょう。短期目標②にも関わることですが、この数年で、HIV感染の予防方法や検査方法の選択肢は増えています。今の時代にあった講演プログラムか吟味し、内容の見直しも検討していきましょう。

また“HIV陽性者のリアルを伝える”の講演は中期目標①につながっています。2023年度も医療福祉サービス事業者からの講演依頼はありませんでしたが、担当スタッフのつ

ながらりから道外のコミュニティセンターにおいて、引き続き陽性者の生の声を伝えていきます。HIV 陽性者の長期療養の時代に、医療福祉サービス事業者に生の声を伝えていくことも大切ですが、身近なところから伝えていくことが、当会が目指す「HIV 陽性者・AIDS 患者との共生を目指し、差別・偏見のない社会を実現」の第一歩と考えます。これからも大切に活動していきましょう。

2024 年度は、世界エイズデー札幌実行委員会とも協力しながら運営していけるようスタッフで調整しています。今後の講演活動に期待しています。

アウトリーチ事業は、当会の事業の中で、一番多くのスタッフが関われる事業です。COVID-19 感染症が 5 類相当になり、北海道医療大学大学祭「九十九祭」への参加が復活し 4 年振りに参加できました。関係者に確認したところ、大学祭実行委員の学生も経験者がいないこともあり、九十九祭への参加実績・参加経験がある団体を中心に参加依頼のお声掛けをしていたそうです。こういった状況の中で、当会にお声がかかったことは、これまでの繋がりを大切に、大学・学生さんの信頼を得ながら活動して来れたからだと思います。素晴らしいことですね。

さっぽろレインボープライドでも 2 日間ブース出展することができましたね。

いずれのブースも、色々な種類のコンドームや資料等の配布、検査の情報、PrEP や U=U の情報など、基礎知識から最新情報まで、HIV/エイズに関する正しい情報に触れることができる内容で、短期目標②につながるようコンビネーション予防を意識したブースを行うことができたと思います。ブースに立ち寄った人たちにとって、HIV の感染予防についてや性感染症について考える時間になったと思います。

また、イベントにブース出展参加するだけではなく、一般社団法人にじいろほっかいどう（以下、にじいろほっかいどう）と共催で「今、知っておきたい HIV の基礎知識と新しい予防方法～コンビネーション予防と PrEP～」と「ゲイバイ男性向け交流会×HIV 学習会『UPDATE!!』」の勉強会イベントを 2 つ開催することができましたね。共催とは言え、当会主催でイベントを行うのは数年振りで、とても嬉しいことです。他の事業もある中、にじいろほっかいどうと企画・調整し、当日運営・協力してくれたスタッフがいないとできなかったと思います。尽力してくれたスタッフの皆さんに感謝いたします。

これら以外にも、スタッフの繋がりに Jazz ライブでの受付で当会紹介リーフレット等の配布を行うことができたほか、ラジオでの情報発信やさっぽろレインボープライドの公式 HP へのバナー広告掲載による情報発信など、様々なツールを利用しながら、HIV/エイズについての情報を発信できたと思います。アウトリーチ事業のどの活動も、短期目標①の達成が短期目標②の達成につながっていることを実感します。

アウトリーチ事業は、スタッフの「やりたい!」「発信したい!」を実現できる事業です。これからもより多くのスタッフのモチベーションをくみ取り、会のみんなで情報発信していきましょう。

ななかまど PJ は、北海道に暮らす HIV 陽性者が「今よりもっと元気になるために必要としていること」を共に考え、形にしていくことを目的に、面談ルーム「くれば一緒に」と陽性者交流会を実施しています。くれば一緒にの問い合わせ・利用はありませんでしたが、陽性者交流会は、引き続き、運営することができましたね。

2023 年度は、スタッフがキャリアアップのため活動を離れ、陽性者交流会の当日の運営に携われるスタッフが 1 名体制になりました。広報フライヤーの制作ができていない中で病院への情報提供が十分できなかったもあり、参加申込の定員割れなどで中止せざるを

得ないこともありましたが、スタッフが適宜、開催と中止の判断を検討し適切に動いてくれたことに感謝いたします。

陽性者交流会は、毎回楽しみにしている参加者だけではなく、新規の参加者も一定数おられます。交流会の中では、自分が陽性であることを気にせずに話せる場であり、ニーズのある事業です。フライヤーの内容の検討などより効果的な広報について今後検討し、道内の陽性者の手に届く事業を今後もしていきます。

また、交流会スタッフ1名体制となっているため、陽性者スタッフの募集・育成も今後の課題です。すぐに陽性者スタッフが増えるというのは現実的ではないと思いますので、スタッフ1名の運営で内輪の会にならないよう、陽性者スタッフ以外のななかまどPJスタッフも全員で、安定した交流会が実施できるよう意識しながら、これからも運営していきます。

キルト部門は、毎週木曜日に定例で活動していただいています。2023年度も、毎年行っている特定非営利活動法人 エイズ孤児支援 NGO・PLAS 様へのキルト部門からの寄附もできましたね。そして、当会のキルトを手にした方から、好評で再度制作の依頼があったり、輪が広がっているのを感じています。

キルトは、アウトリーチでも展示をしていますが、ブースに立ち寄ってくださった方の中には、キルトの前に立ち止まりキルトを鑑賞される方は少なくありません。メモリアルキルトをはじめ、キルトに込められた想いに触れ「感じて」「考える」きっかけになっていると思います。これは、キルト会員の皆さんの一針がなければ出来ないことです。

一針一針丁寧に、愛情をこめて、制作していただいているキルト会員の皆さまに大変感謝しています。

全体を通して、2023年度は、COVID-19感染症も落ち着き、少しずつ以前のように社会活動が戻ってきました。会の活動も前年度より増え、コロナ前に戻ってきています。2023年度は、行政や医療機関、全国のエイズNGOやLGBTをプロパーとしている団体はもちろん、大学やバンドなどHIV/エイズとは全く関係ない団体にもご理解とご協力いただき資料の配布など啓発することができたと思います。これは、今まで当会が大切にしてきたことをスタッフがそれぞれの団体にレッドリボンのバトンを渡し、つながってくれていたから出来たことだと思います。これからはHIV領域の団体だけではなく、様々な団体とのつながりを大切に、そしてさらに多くの団体とつながっていけるよう、活動していきます。それが、当会の目的である「HIV/エイズへの差別・偏見のない社会」につながっていくと信じています。

2022年度から改定し短期目標③を継続していますが、変わらずの主要スタッフ不足により、会員・ヘルプスタッフの皆さんに対して会の中での勉強会の実施はできませんでした。スタッフがそれぞれが、「HIV/エイズに関すること」だけではなく、「性感染症に関すること」「認定NPOやNPOの組織づくりに関すること」「広報に関すること」など、活動に必要な情報を吸収するため、外部の研修会や勉強会に積極的に参加して自己研鑽を積んできました。すぐに活かせるもの、そうではないもの様々ですが、吸収したことを会員・ヘルプスタッフに伝え、これからはスタッフ一同、同じ方向性で一緒に活動していきたいと思っています。

札幌市主催のLGBTのためのエイズ検査の広報や当日の相談員派遣、厚生労働省の研究班の事業への協力など、継続できている事業もあります。ここには記載できなかった事業もたくさんあります。そして2023年度は、新しくヘルプスタッフ登録していただいた

方々や登録していたがコロナ禍でなかなか外での活動が難しかったスタッフも、アウトリーチをはじめ大活躍してくださった一年でした。その活動に大変感謝いたします。

また、2023 年度も助成金だけではなく、資金面で継続的に応援して下さる賛助会員の皆様、たくさんの寄附をいただいた個人の皆様、啓発資材のサンプルを提供いただいた企業様等、たくさんの方々に支えられ、事業を全うすることができました。本当にありがとうございました。この場を借りて、心よりお礼申し上げます。

2024 年度も、すでにアウトリーチは「九十九祭」と「さっぽろレインボープライド」でのブース出展が決まっています。講演事業も世界エイズデー札幌実行委員会と協力していきながら活動できるようスタッフが調整しています。ななかまどプロジェクトは、陽性者交流会がスタートしてから 10 周年を迎えます。

これまでも、それぞれのスタッフが関われる形で、活動を支えてくださっています。年齢も職業もセクシュアリティも多様なスタッフが関わってくれていることで、一つの事柄も、多角的に考えることが出来る、これは、当会の財産だと思います。事務局メンバーだけの活動にならないよう、それぞれの経験や感受性を共有するような機会を持ち、切磋琢磨していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

定例ではございますが、2024 年度も事務局メンバーだけでは、会の活動はできません。会のみinnで事業を進めていきたいと思っています。スタッフそれぞれが「ワクワクすること」「心が動くこと」を考えながら、自分が出来ることから始め、みんなで活動の輪を少しずつ広げて行きましょう。